

地方創生とSDGsのポイント



◎太田講師の講話要旨

SDGsとは、国連において全会一致で採択された「持続可能な開発目標」のことであり、その背景には爆発的に増え続ける世界人口とそれに伴う資源の枯渇、環境負荷の増大がある。SDGsの17のゴール（目標）には、「貧困をなくす」、「飢餓をゼロに」などが並んでいるが、日本

太田講師

のような先進国では今一つ実感が湧きにくいものもあった。しかし、今我々が直面するコロナショックは、SDGsが日本を含むすべての国における課題であることを改めて明らかにした。また、次世代通信規格5Gに代表される情報化の進展などにより、世界は大きな変革の時期にあり、将来の予測が難しい時代を迎えている。

ここ奈良県においても、コロナ渦による経済悪化は深刻である。一方で、閉じた空間に人が密集する「都市化」から、開かれた場所へと分散して暮らす「開疎化」へ価値観の転換が進む兆しがあり、地域社会にも大きな変革の波が訪れている。

地方創生におけるSDGsの果たす意義は、地域課題の解決に向けた「共通言語」であり、そのポイントは「未来よし」、「社会よし」、「地域から地球よし」と言える。これらは、地方議会議員の皆さまが日頃から考え、実践されておられることそのものとする。皆さまには、身近にある変化の兆しや多様な価値観の存在に目を向けていただくとともに、今後とも地域におけるSDGsの旗振り役として、地域のビジョン共有に向けてご協力を賜れば誠に幸甚である。



◎質疑の概要

Q：牧浦議員

SDGsは、まだ全貌がわからないし指標もはっきりしないところがある。自治体が具体的にどのように取り組んでいけば良いでしょうか。



牧浦議員

A：太田講師

国全体で取り組む指標はできているが、自治体の達成度指標は整備中と見られる。内閣府が示しているガイドライン等の情報は後日提供します。

Q：牧浦議員

行政現場に落とし込むヒントはありますか。

A：太田講師

総合計画に関連づけることが基本でしょう。その場合、既存の取組の延長でなく、SDGsの新たな視点を加えられると良いです。

◎太田講師から「達成度指標」について補足

自治体におけるSDGsの達成度指標について、現在、市町村単位での進捗を把握するための指標※1はあるものの、調査精度や調査間隔等の点で課題を残しています。

こうした中、例えば都道府県単位ですが、大阪府におけるSDGs達成度の把握手法※2は参考になると考えられます。

また、東京都荒川区などでは住民の「満足度」に着目した行政運営が行われており、住民の幸福度計測手法※3として注目しています。

(参考資料)

※1 地方創生SDGsローカル指標リスト

(内閣府地方創生推進事務局)

※2 Osaka SDGs ビジョン (大阪府SDGs推進本部)

※3 荒川区民総幸福度に関する区民アンケート調査

(荒川区総務企画部総務企画課)

◎末光副知事による総括コメント要旨

地方創生とSDGsをつなぐキーワードは「持続可能なまちづくり」だと思う。

例えば、北葛地域の人口も現状の10万人から2045年には7万人ぐらいになると推計されている。人口減少や地域経済の縮小に対応していくこと、それが持続可能なまちづくり。



末光副知事

そして、これをSDGsの理念に沿って進めて行くことが大事。

SDGsと地方創生については内閣府が、SDGsの未来都市として優れた取組をしている都市を選定し、奈良県から4つ選ばれている。その中に広陵町もあり、北葛地域共通の課題も多いと思う。それは、例えば

○環境：安全安心、豪雨災害、浸水被害対策

○社会：誰一人取り残さない、地域福祉の維持

○経済：地域内経済を回していく といったこと。

この「経済」にも大いに関係するが、コロナに関しては、「変化に対応する」から「変化を生み出す」へ考え方を变えることが大事ではないか。

特に、ポストコロナの時代には、オンラインやリモートワークの拡大で、時間と場所の制約がほぐれてきて「新しい時間」が生まれてくる。例えば、東京の人が奈良県でリモートワークをし、史跡三昧で過ごしながらか仕事もこなすということができるようになる。

北葛地域は、広瀬大社の砂かけ祭、明神山からの眺望、古墳群や銅鐸出土地など観光資源がたくさんある。このような地域の資源を生かして魅力を増し、「新しい時間」の可能性を提示することが、観光だけでなく定住促進も含め、経済活性化のポイントとなる。

編集後記

多くの会員の皆様のご協力のおかげで、初のオンライン勉強会を開催できました。ご協力ありがとうございました。